

RANE

ONE

ユーザーガイド

serato

Powered by Serato DJ Pro

安全にお使いいただくために

この取扱説明書で使用している危険防止のマーク



このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。



このマークは、適切な電圧で機器をしようしないと、感電の恐れがあるという警告です。



このマークは、ご利用出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

製品をご使用の際は、以下の使用上の注意に従って下さい。

1. 注意事項を必ずお読み下さい。
2. 注意事項を必ずお守り下さい。
3. すべての警告に従って下さい。
4. すべての注意事項に従って下さい。
5. 水の近くで使用しないで下さい。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用して下さい。液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないで下さい。
7. 取扱説明書に従って設置して下さい。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むその他の音楽機器など、熱を生じる機器の近くには置かないで下さい。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用して下さい。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼して下さい。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意して下さい。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意して下さい。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用して下さい。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに乗せて使用して下さい。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意して下さい。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いて下さい。
14. 修理やアフターサービスについては、専用窓口にお問い合わせ下さい。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所でご利用下さい。
16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカーで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談下さい)。
17. 水がかかるような場所に置かないで下さい。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないで下さい。
18. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないで下さい。



このマークのついた製品は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に、アダプタのアース線を接地してご使用下さい。

inMusic Japan 株式会社 カスタマーサポート部

東京都港区南麻布 3-19-23 オーク南麻布ビルディング 6 階

[Web] rane-dj.jp/

[サポート] rane-dj.jp/support

ユーザーガイド

はじめに

ONE をご購入いただきありがとうございます。Rane DJ は、あなたにとって音楽がどれだけ大切なものであるかを知っています。私たちは、あなたのパフォーマンスを最高にすることを、唯一念頭に置いて本製品を設計しました。

同梱物

ONE 本体

電源ケーブル

USB ケーブル

ソフトウェアダウンロード・カード

ユーザーガイド/保証書(本書)

サポート

この製品に関する最新情報（ドキュメンテーション、技術仕様、システム要件、互換性情報など）および製品登録については、rane-dj.jp/をご覧ください。

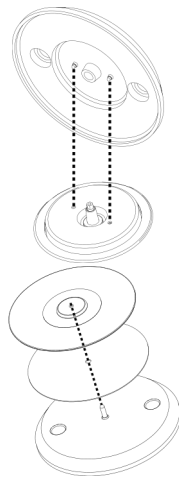
その他の製品サポートについては、rane-dj.jp/support をご覧ください。

セットアップ

1. プラッターの組み立て

- ONE 本体ベースをパッケージから取り出します。
パッケージ（本体の下）からプラッターアセンブリを取り外し、本体を平らで安定した場所に置き、組み立てと操作を行います。
- ONE 本体のモータの穴にプラッターの底のピンを合わせて、本体ベースにプラッターを置き、しっかりと押して下さい。
均一に回転するようにし、過度に揺れないようにして下さい。
- スリップマットをプラッター上に置き、スピンドルをはめ込みます。さらにスピンドルの上に**コントロールバイナル**を置き、その上に**クイックリリース・アダプター**をはめ込みます。スピンドルの上部をつまみながら、カチっという音が聞こえるまでゆっくりと**コントロールバイナル**を回し、**コントロールバイナル**をスピンドルにロックします。

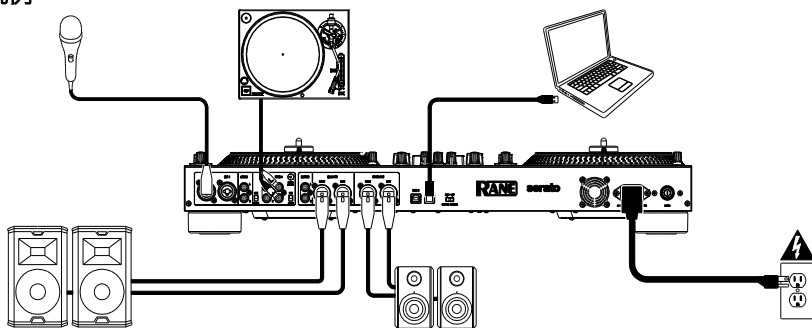
スピンドルの溝が、**クイックリリース・アダプター**の側面にあるボタンの反対の位置に並ぶようにして下さい。



2. 接続して DJ プレイを始める

- 最新バージョンの DJ ソフトウェアをダウンロードしインストールします。
- ONE 本体を水平な場所に設置します。
- ONE 本体の電源を OFF にした状態で、先に ONE に接続した付属の電源ケーブルをコンセントに挿します。
- 電源スイッチ**を ON にし、ONE を起動します。
- 付属の USB ケーブルで ONE の **USB ポート** とお使いのコンピュータの USB ポート、またはコンピュータに接続した USB ハブを接続します。
- Serato DJ Pro を起動すれば、DJ プレイが始まります。Rane ONE での Serato DJ Pro 使用について詳しくは、ウェブサイト support.serato.com をご参照下さい。

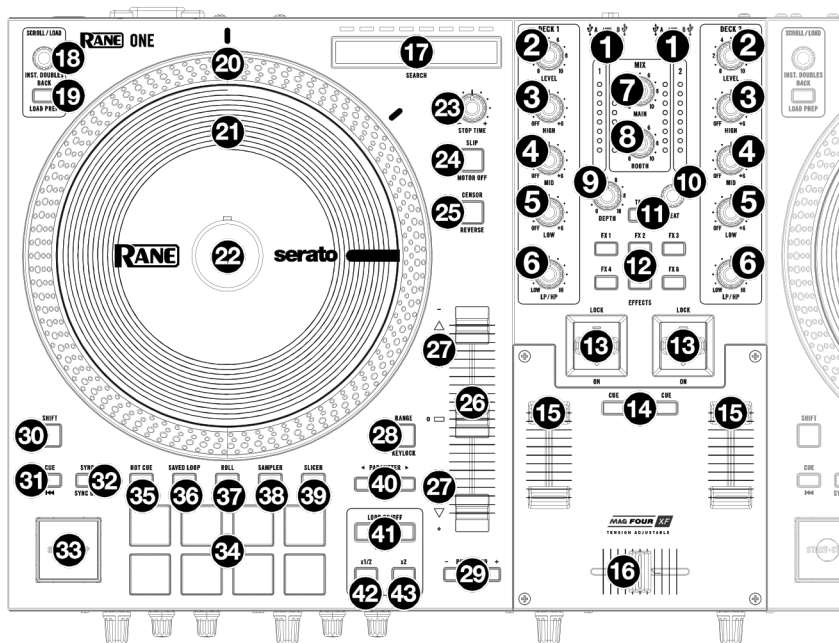
接続例



はじめに > [同梱品](#) に記載がないものは全て別売品です。

機能

トップパネル



1. **Deck Source** : このノブで、各チャンネルのオーディオソースを設定します：USB A または B (ソフトウェアのレイヤーで再生されるトラック)、LINE (リアパネルのデッキ PHONO/LINE In に接続されたデバイス)

注意 : LINE を選択した場合は、リアパネルの LINE/PHONO スイッチを正しく設定して下さい。

注意 : デッキのコントロールは、Deck Source が USB A または B に設定されている場合にのみ、MIDI 情報を送信します。

注意 : ONE に DVS (デジタルバイナルシステム) 用のターンテーブルを接続して使用する際は、ターンテーブルを Phono/Line In に接続し、オーディオソースを USB A または B (コンピュータが接続されている方) に設定して下さい。

2. **Deck Level** : 対応するチャンネルのプリフェーダー、プリ EQ オーディオレベルを設定します。このノブの横にあるメーターは、信号の音量レベルを示します (メーターが赤い部分に到達し「クリッピング」したら音量を下げてください)。
3. **Deck EQ High** : 高音域を調整します。
4. **Deck EQ Mid** : 中音域を調整します。
5. **Deck EQ Low** : 低音域を調整します。
6. **Deck LP/HP** : デッキに適用されているフィルターを調整します。ノブを反時計回りに回すとローパスフィルターの効果が得られます。ノブを時計回りに回すとハイパスフィルターの効果が得られます。フィルターを無効にするにはフィルターを 12 時 (中央) の位置に設定します。

注 : すべての EQ とフィルターコントロールは完全にカットされます。

7. **Main : メインアウト**の音量を調節します。このノブの隣にあるメーターは、信号の音量レベルを示します（メーターが赤い部分に達し「クリッピング」したら音量を下げて下さい）。
8. **Booth** : ブースアウトの音量を調整します。
9. **Depth** : 適応するデッキの Flex FX の "ウェット/ドライ"の割合を調整します。
10. **Beat** : 選択されているエフェクトのタイムディビジョンを設定します。
11. **Tap** : 希望のテンポでこのボタンを何回か押すと、チャンネルごとのビート・テンポ・エフェクトの BPM レートが手動で設定されます。
12. **FX 1~6** : 6 つのエフェクト・バンクに割り当てられた Serato ソフトウェア・エフェクト (FX 1 と FX 2) の ON/OFF を切り替えます。ボタンを押すと、押したボタンのエフェクトが ON になります。ボタンを押し続けると、1 度に複数のエフェクトが ON になります。
13. **エフェクト・トグル** : このトグル・スイッチを奥に倒すと、ソフトウェア・エフェクトが ON になります。トグルはその位置に固定されます。エフェクトを OFF にするには、トグルを中央の位置に戻します。
トグルを手前に引くとソフトウェア・エフェクトが一時的に ON になり、トグルを放して中央の位置に戻すと OFF になります。
14. **Deck Cue** : このボタンを押し、各デッキをモニタリングするためにプリフェーダー信号をキューチャンネルに送ります。Deck Cue が ON の状態では、ボタンが点灯します。二つのチャンネルを同時にキューイングする場合は、両方のデッキの Deck Cue ボタンを押します。
15. **チャンネルフェーダー** : 対応するデッキの音量を調節します。
16. **クロスフェーダー** : デッキ間の音量レベルを調整します。
17. **Search** : このタッチストリップの全長は、再生中のトラックのレングスに値します。このセンサーの任意のポイントに指でタッチすると、トラック内のそのポイントにジャンプすることができます。タッチストリップの上の LED は、トラック内の再生ヘッドのおおよその位置を示します。
18. **Scroll/Load/Instant Doubles** : このノブを回してリストをブラウズし、ノブを押すと選択中のトラックがデッキにロードされます。
このノブをすばやく 2 回押すと、両方のデッキに同じトラックをロードすることが出来ます (インスタント・ダブルス)。
19. **Back/Load Prep** : このボタンを押すと、ソフトウェア上で 1 つ前の画面に戻ります。
Shift を押しながらこのボタンを押すと、Serato ソフトウェアの Prepare Crate で選択されているトラックをロードすることができます。
20. **高トルク・ダイレクトドライブ・ブラッター** : トルク回転数が高くパワフルなモーターで、回転速度を表すドットを配したアルミブラッターを回転させます。ブラッターのトルクは、リアパネルのモータートルクスイッチを切り替えて調整します。
注意 : 回転中のブラッターを一定の位置で長時間押さえ続けることはお控え下さい。
21. **コントロールバイナル** : この 7.2 インチ (18.2 cm) のコントロールバイナルを操作し、再生中のオーディオを操作します。コントロールバイナルの下には付属のスリップマットを敷いて下さい。付属品以外のスリップマットを使用することもできます。
注意 : クイックリリース・アダプターの下に敷くコントロールバイナルは、ご自分で用意したバイナルに差し替えることもできます。その際は、付属のコントロールバイナルと同じ位置 3 箇所に 6 mm の穴が空いているコントロールバイナルを作成して下さい。

22. **クイックリリース・アダプター**：クイックリリース・アダプターは、**コントロールバイナル**を**プлатター**に固定します。**コントロールバイナル**や**スリップマット**を**プлатター**から外す際は、**クイックリリース・アダプター**の側面にあるボタンを押したまま、コントロールバイナルをスピンドルから持ち上げます。戻す際は、スリップマットを**プлатター**に置き、スピンドルをはめ込みます。更にスピンドルの上に**コントロールバイナル**を置き、その上にクイックリリース・アダプターをはめ込みます。スピンドルの上部をつまみながら、カチっという音が聞こえるまでゆっくりと**コントロールバイナル**を回し、**コントロールバイナル**をスピンドルにロックします。スピンドルの溝が、**クイックリリース・アダプター**の側面にあるボタンの反対の位置に並ぶようにして下さい。
23. **Stop Time**：トラックを一時停止させた時に、トラックが完全に止まるまでの時間（ブレーキタイム）をこのノブで設定します。
24. **Slip/Motor OFF**：このボタンを押してスリップモードのON/OFFを切り替えます。スリップモードでは、タイムラインを進行させながら Hot Cue ポイントヘジャンプしたり、Loop Roll をトリガーしたり、**プлатター**の制御でトラックを一時停止させたりするパフォーマンスを行うことが可能です。パフォーマンスを行なっている間もディスプレイ上に表示される波形の下半分のタイムラインは進行し続け、トラックはパフォーマンスを止めた時点のタイムラインの位置から通常再生を再開します。
- Shift** を押しながらこのボタンを押すと、**プлатター**モーターの ON/OFF を切り替えることができます。オーディオの再生中にモーターの ON/OFF を切り替えても、オーディオの再生は中断されません。
25. **Censor/Reverse**：このボタンで**Censor**機能のON/OFFを切り替えます。**Censor/Reverse**機能がONの状態ではこのボタンを長押しするとトラックがリバース再生されます。リバース再生を行なっている間もトラックのタイムラインは正方向に進行し続け、ボタンから手を離すと、トラックはボタンから手を離れた時点のタイムラインの位置から通常再生を再開します。
- Shift** ボタンを押しながらこのボタンを押すと、トラックが**リバース再生**されます。このボタンを再度押すと、トラックは再度ボタンを押した時点の位置から正方向に再生します。
26. **ピッチフェーダー**：このフェーダーを動かしてトラックのスピードピッチを調整します。ピッチレンジは、Pitch Range ボタンで変更できます。
27. **Takeover LED**：インスタント・ダブルを使用すると、**ピッチフェーダー**の位置がソフトウェア上のピッチと一致しないことがあります。その場合、**Takeover LED**の矢印で示される方向に、ゆっくりと**ピッチフェーダー**を移動させて下さい。この操作により、**ピッチフェーダー**はソフトウェア上のピッチにマッチし、再びコントロール可能となります。
28. **Pitch Range/Keylock**：これらのボタンの1つを押して、**ピッチフェーダー**の範囲を **±8%**、**±16%**、**±50%**のいずれかに設定します。
- Shift** ボタンを押しながらこのボタンを押すと、**Keylock**のON/OFFを切り替えることができます。**Keylock**をONにすると、トラックのKEYはその時点での**ピッチフェーダー**の位置のKEYにロックされ、曲のピッチを調整してもKEYは変わりません。
29. **Pitch Bend -/+**：これらのボタンの1つを長押しすると、一時的にトラックのスピードを早くしたり、遅くしたりすることができます。
30. **Shift**：このボタンを押しながら他の操作子をコントロールすると、ONEのサブ機能にアクセスできます。

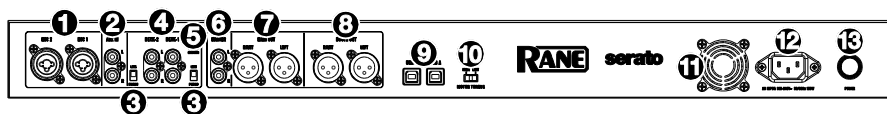
31. **Cue/|◀◀**：再生中ではないデッキで、任意の再生ヘッドまで**プлатター**を動かしてこのボタンを押すと、一時的な Cue ポイントを設定することができます。
再生中にこのボタンを押すと、再生ヘッドは一時的な Cue ポイントにジャンプします。一時的な Cue ポイントを設定していない状態でこの操作を行うと、再生ヘッドはトラックの開始地点に戻ります。
再生中ではないデッキでこのボタンを長押しすると、トラックは一時的な Cue ポイントから再生され、ボタンを離すと再生は停止します（再生ヘッドは Cue ポイントに戻ります）。このボタンを押しながら **Start ボタン** を押すと、トラックは一時的な Cue ポイントから再生され、ボタンを離してもそのまま再生を続けます。
- Shift** を押しながらこのボタンを押すと、トラックの開始地点から「スタッタープレイ」されます。
32. **Sync/Sync OFF**：このボタンを押すと、デッキに選択されたトラックの BPM が、もう一方のデッキのトラックの BPM と Sync します。
Shift を押しながらこのボタンを押すと BPM の Sync が OFF になります。
33. **Start/Stop**：このボタンを押して、プлатターの駆動と停止を行います。ボタンを囲む LED は、電源がオンの状態で、トラックが再生されていない場合は薄暗く点灯し、再生されている場合は明るく点灯します。トラックが終わりに近づくと、赤色で点滅します。
34. **パフォーマンスパッド**：これらのパッドには、選択されているパッドモードに応じて異なる機能があります。
ヒント：詳しくは**操作>パッドモード**をご参照下さい。
35. **Hot Cue/Pitch Play**：このボタンを押して **Hot Cue** モードを使用します。Hot Cue モードで再度このボタンを押すと **Pitch Play** モードを使用できます。
注意：Pitch Play モードの使用には、別途 Serato **Pitch N Time** プラグイン（付属していません）が必要になります。
36. **Saved Loop**：このボタンを押して **Saved Loop** モードを使用します。
37. **Roll/Auto Loop**：このボタンを押して **Roll** モードを使用します。**Roll** モードで再度このボタンを押すと **Auto Loop** モードを使用できます。
38. **Sampler**：このボタンを押して **Sampler** モードを使用します。
39. **Slicer/Slicer Loop**：このボタンを押して **Slicer** モードを使用します。**Slicer** モードで再度このボタンを押すと **Slicer Loop** モードを使用できます。
40. **Parameter ◀/▶**：これらのボタンを使用して、パッド・モードの様々な機能を操作します。**Shift** を押しながらこのボタンを押すと、パッド・モードのサブパラメーターにアクセスできます。
41. **Loop ON/OFF/Reloop**：このボタンを押してオートループを作成します。レングスはソフトウェア側で設定します。
Shift を押しながらこのボタンを押すと、最後に再生したループが即座に再生されます。
注意：Roll のレングスはソフトウェアで設定するループのレングスに影響します。また、Roll は最後に再生された Roll と同じレングスでループします。
42. **Loop In/x1/2**：このボタンを押して Loop In ポイントを設定します。
Shift を押しながらこのボタンを押すと、現在のループのレングスが 1/2 の長さになります。
43. **Loop Out/x2**：このボタンを押して Loop Out ポイントを設定します。
Shift を押しながらこのボタンを押すと、現在のループのレングスが 2 倍の長さになります。

フロントパネル



1. **MIC 1 – OFF/ON** : このスイッチでリアパネルの **MIC 1 In** の ON/OFF を切り替えます。ON にすると、Mic 1 In からのオーディオシグナルはプログラムミックスと Cue チャンネルに直接ルーティングされます。
2. **MIC 1 Level** : **MIC 1 In** のゲインを調整します。
3. **MIC 1 Tone** : このノブで **MIC 1 In** からのオーディオシグナルの LOW と HIGH を EQ 調整します。
4. **MIC 2 – AUX/OFF/MIC 2** : このスイッチを **AUX** にし、リアパネルの **AUX In** を ON にします。このスイッチを OFF にすると、**AUX In** と **MIC 2 In** が両方 **OFF** になります。このスイッチを **MIC 2** にすると、リアパネルの **MIC 2 In** が ON になります。Mic 2 In からのオーディオシグナルはプログラムミックスと Cue チャンネルに直接ルーティングされます (**AUX In** の場合も同じ)。
5. **MIC 2/AUX Level** : **MIC 2 In** と **AUX In** のゲインを調整します。
6. **MIC 2/AUX Tone** : このノブで **MIC 2 In** と **AUX In** からのオーディオシグナルの LOW と HIGH を EQ 調整します。
7. **Deck Reverse** : このスイッチを **ON** に設定すると、対応するチャンネルフェーダーの方向 (極性) を反転します。標準のフェーダー極性を使用するには、**OFF** に設定します。
8. **Deck Contour** : チャンネルフェーダーカーブのスロープを調整します。ノブを左に回すと滑らかなフェード (ミキシング向け)、右に回すと鋭くカット (スクラッチ向け) されます。センターの位置が、クラブパフォーマンスの典型的な設定です。
9. **Crossfader Contour** : クロスフェーダーカーブのスロープを調整します。ノブを左に回すと滑らかなフェード (ミキシング向け)、右に回すと鋭くカット (スクラッチ向け) されます。センターの位置が、クラブパフォーマンスの典型的な設定です。
10. **Crossfader Reverse** : このスイッチを **ON** に設定すると、対応するクロスフェーダーの方向 (極性) を反転します。標準のフェーダー極性を使用するには、**OFF** に設定します。
11. **Cue Mix** : ヘッドホン出力における Cue チャンネルとプログラムミックスの音量バランスを調整します。左に回すと Cue チャンネルだけが聞こえ、右に回すとプログラム・ミックスだけが聞こえます。
12. **Cue Split** : このスイッチを **ON** にすると、Cue チャンネルがモノラルに変換され、ヘッドホンの左チャンネルに送られます。同様にプログラム・ミックスもモノラルに変換されてヘッドホンの右チャンネルに送られ、ヘッドホンの出力がスプリットされます。**OFF** の場合は、Cue チャンネルとプログラム・ミックスがブレンドされた状態で、左右のヘッドホンから出力されます。どちらの場合も、**Cue Mix** ノブを使って 2 つの信号の音量バランスを調整します。
13. **Cue Level** : Cue チャンネルの音量を調節します。
14. **ヘッドホン出力 (6.35 mm、3.5 mm、TRS)** : キューイングおよびミックス・モニタリングのために、ここにヘッドホンを接続します。

リアパネル



1. **MIC In 1~2** (XLR/6.35 mmTRS) : マイクまたはラインレベルのデバイスをこのモノラル入力に接続します。モノラル・オーディオ信号は分割され、ステレオ・プログラム・ミックスとキューチャンネルに直接ルーティングされます。ステレオ・ライン入力を行いたい場合は、**AUX In** を使用して下さい。
2. **AUX In** (RCA) : 外部のラインレベルのオーディオソースを接続します。
MIC 2 – AUX/OFF/MIC 2 スイッチを **AUX** に切り替えて使用して下さい。
3. **LINE/PHONO スイッチ** : 対応するデッキの **PHONO/LINE In** に接続されているデバイスに応じて、このスイッチを適切な位置に設定します。PHONO レベルのターンテーブルを使用している場合は、PHONO レベル信号に必要なアンプの増幅を行う必要があるため、このスイッチを PHONO に設定して下さい。ラインレベル・ターンテーブル、CD プレーヤー、サンプラーなどのラインレベルのデバイスを使用する場合は、このスイッチを **LINE** に設定します。
4. **デッキ PHONO/LINE In** (RCA) : ターンテーブル、CD プレーヤー、その他のラインレベルのデバイスなどを接続します。**LINE/PHONO スイッチ** を適切な位置に設定し、**Deck source** ノブを **LINE** に設定することでオーディオ信号を再生することが出来ます。
5. **Phono Ground** : アース線付きのフォノレベルのターンテーブルを使用している場合は、アース線をこの端子に接続します。ハムノイズ等が発生する場合は、アースが接地されていない可能性があります。
注意 : 一部のターンテーブルでは RCA 接続にアース線が組み込まれているため、グラウンド端子への接続が必要ない場合もあります。
6. **Master Out** (RCA) : 外部ミキサーやレコーディングデバイスなどに接続します。プログラムミックスはここから出力されます。
7. **Main Out** (XLR) : ラウドスピーカーまたはアンプ・システムに接続します。トップパネルの **Main** ノブで音量を調節します。
8. **Booth Out** (XLR) : ブースモニターまたはブースのアンプ・システムに接続します。トップパネルの **Booth** ノブで音量を調節します。
9. **USB ポート** (USB Type-B) : USB ケーブルを使用して、コンピュータの使用可能な USB ポートに接続します。USB 接続することで、コンピュータとの間でオーディオおよび MIDI 制御情報を送受信します。
注意 : Rane Control Panel を dj.rane.com からダウンロードし、あらかじめインストールしておいて下さい。
10. **Motor Torque** : このスイッチを切り替えて、プラッターのトルクを調整します。HIGH に設定すると、プラッターは「モダンな」ターンテーブルのように、力強く回転します。LOW に設定すると、「クラシック」なターンテーブルのように、より軽く滑らかに回転します。
11. **冷却ファン** : ONE 本体の過熱を防ぐ冷却ファンです。このファンの通気口周辺が障害物で塞がれていないように ONE 本体を設置して下さい。
12. **AC In** : ONE の電源が OFF の状態で付属の電源ケーブルをこの入力に接続し、次に電源コンセントに接続します。

13. **電源ボタン**：ONE 本体電源の ON/OFF を切り替えます。

ONE 本体の電源を入れるのは、すべての入力デバイスを接続した後、アンプとスピーカーの電源を入れる前に行ってください。

ONE 本体の電源を切る際は、**先に**アンプとスピーカーの電源を切って下さい。

操作

パッドモード

この章では、さまざまなパッドモードについて説明します。各デッキには複数のモードから1つのモードを選択して使用できる8つのパッドが装備されています。**Pad Mode** ボタンの1つを押すと、そのデッキに対応するパッドモードにアクセスします。

Hot Cue

Hot Cue モードでは、各パッドでホットキューポイントを割り当てたり、設定したホットキューポイントに戻ったりできます。

Hot Cue モードを使用するには、Hot Cue

を押します。

Hot Cue ポイントを割り当てるには、トラックの任意の位置で消灯しているパッドを押します。

Hot Cue が割り当てられると、パッドは点灯します。

Hot Cue ポイントにジャンプするには、点灯しているパッドを押します。

割り当てた Hot Cue ポイントを削除するには、Shift キーと対応するパッドを押します。

Pitch Play

Pitch Play モードを使用すると、各パッドは Hot Cue ポイントから異なる音程でトラックを再生します（半音単位で調整可能）。このモードを使用するには、Serato Pitch 'n Time DJ Expansion Pack をインストールする必要があります。Hot Cue ポイントの割り当て方法については詳しくは、上記 **Hot Cue** をご参照下さい。

Pitch Play モードを使用するには、

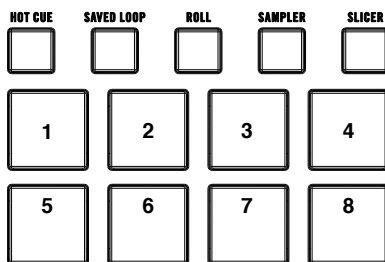
Hot Cue モードで再度 **Hot Cue** ボタンを押します。

使用する Hot Cue ポイントを選択するには、Shift+キーを押しながら薄暗いパッドを押します。

パッドが使用するトランスポーズの範囲を選択するには、Parameter ◀▶ ボタンを使用します

(図を参照)。

現在のトラックのキーを上下に調整するには、Shift キーを押しながら Parameter ◀▶ ボタンを押します。



Up

+4 semitones	+5 semitones	+6 semitones	+7 semitones
0 (original pitch)	+1 semitone	+2 semitones	+3 semitones

Middle

0 (original pitch)	+1 semitone	+2 semitones	+3 semitones
-4 semitones	-3 semitones	-2 semitones	-1 semitone

Down

-3 semitones	-2 semitones	-1 semitone	0 (original pitch)
-7 semitones	-6 semitones	-5 semitones	-4 semitones

Hot Cue ポイントからトラックを再生するには、点灯しているパッドを押します。

各パッドは、現在のトランスポーズの範囲に応じて、特定のトランスポーズ（半音単位）に対応しています（図を参照）。トランスポーズされていないパッド（元のピッチ）は白く点灯します。

Saved Loop

Saved Loop モードでは、あらかじめソフトウェアで作成保存したループを再生できます。

Saved Loop モードを開くには、**Saved Loop** を押します。

ループを再生するには、点灯したパッドを押します。ONE 本体の8つのパッドには、ソフトウェア上で作成保存したループ 1~8 が割り当てられます。各パッドの色はソフトウェア上で設定することができます。

Roll

ロールモードでは、各パッドが一時的にループロールを再生します。パッドを離すとループロールが停止し、トラックが通常通り再生されていたかのように、スムーズに再生が再開されます。

注：8 つのループロールに同時にアクセスするには、Serato DJ Pro **Setup** メニューで **Show Beat Jump Controls** が無効にして下さい。また、ソフトウェアでループのサイズを表示および編集することもできます。

Roll モードを使用するには、**Roll** を押します。

ループロールを再生するには、パッドを押し続けます。

ループロールの8つの長さを調整するには（ソフトウェア上で）、**Parameter** ◀/▶ ボタンのいずれかを押します。操作に合わせてパッドのレイアウトがシフトします。

ループロールを前後にシフトさせるには、それぞれ **Shift** と **Parameter** ◀/▶ ボタンを押します。

Auto Loop

Auto Loop モードでは、各パッドが異なる長さのオートループを再生します。

Auto Loop モードを使用するには、Auto Loop モードで再度 **Roll** ボタンを押します。

Auto Loop Sizes

1/4 Beat	1/2 Beat	1 Beat	2 Beats
4 Beats	8 Beats	16 Beats	32 Beats

Sampler

Sampler モードでは、ソフトウェアのサンプラーをパッドでコントロールできます。

Slicer

重要：このモードを使用するには、トラックにビートグリッドを設定する必要があります。

Slicer モードでは、指定された範囲内のビートグリッド上の連続したビートをスライスし、8つのパッドに割り振ります。この8つのパッドを順に押すとフレーズが進むように演奏できます。対応するパッドを押すことでスライスが再生され、パッドを離すと、トラックが通常通り再生されていたかのように、スムーズに再生が再開されます。

Slicer モードを使用するには、Slicer を押します。

デッキに別のトラックをロードするか、Grid Edit モードを有効にすると、スライサーモードは終了します。

スライスを再生するには、該当のパッドを押します。

スライスのクオンタイズサイズを増減する場合は、Parameter ◀/▶ ボタンを押します。

スライスのサイズを増減する場合は、Shift キーと Parameter ◀/▶ ボタンを押します。

Slicer Loop

Slicerモードで再度**Slicer**ボタンを押すとSlicer Loopモードが使用できます。Slicer Loopモードでは、指定された範囲内のビートグリッド上の連続したビートがスライスされ、8つのパッドに割り振られます。Slicerモードと若干異なるところは、スライスループはループ再生されるという点です。

付録

技術仕様

Digital Audio		
Converters	Cirrus Logic, 24-bit PCM, 48 kHz	
Digital Signal Processing	32-bit, Floating Point, Double precision	
Dynamic Range (A-weighted, unity gain)	ADC	113 dB
	DAC	113 dB
	CD Input to Analog Output	110 dB
	CD Input to USB Output	113 dB
	USB Input to Analog Output	113 dB
Inputs		
Microphone 1/2 (Combo XLR/1/4" [6.35 mm] TRS, Mic/Line switchable)	Analog Gain	25 dB
	Maximum Input	110 mV
	Gain Trim	Off to +26 dB (unity at center)
	Tone Control	2-band
Aux Input (RCA stereo pair)	Maximum Input	4 Vrms
	Dynamic Range (A-weighted)	114 dB
	Gain Trim	Off to +12 dB
	Tone Control	2-band
CD/Phono Inputs 1/2 (RCA stereo pairs, switchable)	CD	Line
	Maximum Input	4 Vrms
	Gain Trim	Off to +12 dB
	Tone Control	3-band, full-cut to +10 dB
	THD+N (20 kHz BW @ 1 kHz)	0.004%
	Phono	RIAA
	RIAA Curve	+/-0.25 dB
	Gain (@ 1 kHz)	31.5 dB
	Maximum Input (@ 1 kHz)	106 mV
	Dynamic Range (A-weighted)	102 dB
Outputs		
Main Outputs (XLR)	Gain Trim	Off to 0 dB
	Maximum Output	8 Vrms
	THD+N (20 kHz BW @ 1 kHz)	0.004%
	Frequency Response	Flat
Booth Outputs (XLR)	Gain Trim	Off to 0 dB
	Maximum Output	8 Vrms
	THD+N (20 kHz BW @ 1 kHz)	0.004%
	Frequency Response	Flat

Outputs (continued)		
Master Outputs (RCA stereo pair)	Maximum Output	4 Vrms
	THD+N (20 kHz BW @ 1 kHz)	0.004%
	Frequency Response	Flat
Headphone Outputs (1/4"/6.35 mm and 1/8"/3.5 mm TRS)	Maximum Output Voltage	4 Vrms (no load)
	Output Power	50 mW (50 ohms)
	Dynamic Range (A-weighted)	108 dB
General		
Pads	(16) on/off multi-color back-lit pads (8 per deck, 8 modes each)	
Faders	(1) MAG FOUR tension-adjustable crossfader with independent Contour and Reverse controls (2) Standard channel faders with shared Contour and Reverse controls	
Connectors	(2) XLR outputs (Main) (2) XLR outputs (Booth) (1) RCA stereo output pair (Master) (2) XLR / 1/4" (6.35 mm) TRS inputs (Mic 1–2) (2) RCA stereo input pairs (Deck 1–2) (1) RCA stereo input pair (Aux) (1) 1/4" (6.35 mm) TRS output (Headphones) (1) 1/8" (3.5 mm) TRS output (Headphones) (2) USB Type-B ports (1) IEC power cable input	
Power	Connection: IEC Voltage: 100–240 V, 50/60 Hz Consumption: 50 W	
Dimensions (W x D x H)	674 x 345 x 124.3 mm	
Weight	10.68 kg	

※仕様は予告なく変更になる場合がございます。

商標とライセンス

Rane は、InMusic Brands、Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
Serato、Serato DJ Pro、NoiseMap および Serato ロゴは Serato Audio Research の登録商標です。
他のすべての製品名、会社名、商標、または商号は、それぞれの所有者のものです。